

平成29年度流山市民公益事業補助金
申請事業に係る公開審査結果

平成29年4月28日

協働まちづくり提案調整会議

平成29年度流山市民活動団体公益事業補助金
公開審査結果

No.	申請事業名
1	市野谷の森公園予定地生物多様性保全事業
団体名	事業目的 環境保全（3年度目）
特定非営利 活動法人 NPOさと やま	オオタカの住む市野谷の森公園予定地において自然観察会やさとやま塾などのイベントを実施し、自然とのふれあいの素晴らしさを実感してもらうことによって、市野谷の森の適正な利用とオオタカやノウサギやキンランなどの貴重動植物の保全を市民に呼びかけ、公園開設前に予定地の生物多様性が損なわれないようにする。

1 協働まちづくり提案調整会議委員会評点

評点平均77点（100点満点）

2 協働まちづくり提案調整会議委員会意見

活動の趣旨を整理して発信する：

当該事業では、流山市の「自然」を市民へ伝えるよう、取組んでいただきたい。特に、これからの子どもたちに伝えていく事業にできないだろうか。当該団体は、常日頃イベント情報をインターネットで配信し、活動への熱意が感じられるものである。自然環境の保全については、人跡未踏の叢林なのか、さとやまという再生型の自然なのか。特定非営利活動法人NPOさとやまとして取組むべき保全の観点を明確にされながら活動していただきたい。

リーフレット戦略をよく検討する：

前回のリーフレットでは、文字が多い・小学生の読めない漢字が多い等により、小学生に配布するには難しいと思われる。リーフレットの内容には、一工夫いただきたい。

印刷部数については、自費で製作できる範囲として12,000部は過大ではないだろうか、という意見があった。部数については、コミュニティ課と精査していただきたい。

平成29年度流山市民活動団体公益事業補助金
公開審査結果

No.	申請事業名
2	まちづくり人養成塾・流山キャンパス（MBS）運営事業
団体名	事業目的 まちづくり（3年度目）
まちネット 流山	地域の課題や社会の矛盾を感じるのみならず、その解決に向け歩みだそうとする市民を発掘育成すること。

1 協働まちづくり提案調整会議委員会評点

評点平均65点（100点満点）

2 協働まちづくり提案調整会議委員会意見

人材育成としてこれまでの団体の実績は十分である。授業のクオリティは非常に高い。謝金、内容は妥当。

構成を工夫し参加を募る：

必要な事業であるのに、毎回参加数が少ないのは、カリキュラムに工夫が必要ではないだろうか。女性がわかりやすい内容にするために、女性の講師も入れるのはどうか。前回との相違点、工夫箇所を明確にされながら、女性や若い方も参加が増えていく可能性を探っていただきたい。受講生が少ないことに加えて、塾生には会社の命令で来ている人がおり、受講者負担がふさわしいのではないかと、という意見もあった。受講生の募集の仕方については、卒業後の活動などに規定がなく、市税を使う事業として疑問点が残る部分もある。

新しい公共としての価値を発信する：

この機会を作っていただくことにより、眠れる人材が参画できる状況を作っていただけである。当該事業では、まちづくりの課題を具体的に流山と関係の強い話題などを取り上げながら、流山における公益性の開発をしていただけると非常にありがたい。この分野の人材は、教育で発掘するよりも「スキル」の高い眠れる人材が具体的な活動に一步踏み出す「機会・場」を提供することのほうが優先されるのではないかと、という意見もあがった。

平成 29 年度流山市民活動団体公益事業補助金
公開審査結果

No.	申 請 事 業 名
3	笑いヨガ de ピンピンコロリ事業
団体名	事業目的 福祉の増進（3年度目）
笑いヨガ de PPK in 流山	笑いヨガを用いて 1：介護予防・認知症予防・閉じこもり予防・ストレス解消になる場を提供する。 2：笑いヨガを用いて多世代交流をも促進し、不測の事態の際にスムーズに助け合える顔見知りの増加及び絆づくりを目指す。

1 協働まちづくり提案調整会議委員会評点

評点平均 76 点（100 点満点）

2 協働まちづくり提案調整会議委員会意見

これまでの経験と成果を活かす：

当該事業は今回で3回目の申請となるが、1、2回目とこれまでの課題を分析されてきた。事業計画ではターゲット想定が具体化され、企画段階から連携を企てる取組みについても期待ができる。集客に向けての工夫の跡がみられ、今後を考えているのは素晴らしい。事業については、今後の若い女性市民のネットワークに期待したい。単独で参加者を募るよりも、人が集まる場所に出向いて積極的に働きかけること、親子の集客の強化、ストレスホルモン数値の活用、笑いを数値化する画期的な部分の活用など、様々な工夫をされながら、3年目の成果を期待したい。

新しい公共としての事業価値を発信する：

審査の中で、男性の集客対策として「ストレス社会をキャッチコピーに」という話もあったが、色々なアイデアを一度検討され、良いところを取り入れていただきたい。

あくまで、「笑いヨガ」は、高齢化社会の進行に伴って健康年齢の高齢化を目指し、各種の健康増進は各人各様の取り組みが実施されている中での手段の一つ。ラジオ体操、ウォーキング、ランニング等の個人の自発的な健康づ

くり精出す人々から市への支援要請はないように「笑いヨガ」についても個人ベースの取り組みとすべきで、これ自体は市が支援するものではない。

「笑いヨガ」を手段とした取組みを通じて、どのような公益性を実現していくか。「事業の目指す将来像」を行政と作り上げ、明確に打ち出していきたい。

平成29年度流山市民活動団体公益事業補助金

公開審査結果

No.	申請事業名
4	お一人様シニアのためのいっしょに朝ごはん会
団体名	事業目的 福祉の増進（新規事業）
NPO 法人東葛地区婚活支援ネットワーク	シニア同士及び多世代の支えあいにより一人暮らしやシングルシニアのコミュニティ作りと食事・生活リズム改善に繋げ、地域の誰もが健康で安心し、生きがいを持って活躍できる成熟した地域づくりに貢献する。

1 協働まちづくり提案調整会議委員会評点

評点平均67点（100点満点）

2 協働まちづくり提案調整会議委員会意見

これまでの活動の実績は十分であり、当該事業は過去の経験を踏まえた提案となった。

達成目標と事業内容を共有しやすく提示する：

無理に結婚に繋げず、シニア同士の交流の場に変えたのはよかった。他の団体とのコラボレーションを大いに期待したいという声が多く上がった。内にこもらずに他と協力するというのは非常に良い取組みである。シニア世代を「公の場」へ引き出す試みは、「ふれあいの家」で身近なテーマで既に活動中である。当該事業はその拡大を目指す施策に現段階では絞って行くべきではないだろうか、という意見もあった。行政の既存施策を考慮されながら、「事業の目指す将来像」を行政と作り上げ、明確に打ち出していきたい。リピーターということが話題に上がっていたが、そこに拘らずとにかく多くの人にチャンスを与えていただきたい。そのためにも明確なメッセージを出してほしい。今回のように誤解を与えることの無いよう、明解な言葉でマナーBOOKのような発信物をつくっていくべきである。各地区でのモデルケースも期待している。公平公正ということで全地区でできるのかと思ってしまうが、無理をせずにモデルケースを作っていくことを大切にしていきたい。

事業費を実現性、継続性から検討する：

参加者1人あたりに係る費用の負担割合について、審査会でも多くの質問

があがった。受益者負担の割合の妥当性について、事業の持続性を考慮されながら研究していただきたい。

平成29年度流山市民活動団体公益事業補助金
公開審査結果

No.	申請事業名
5	流山オープンデータラボ
団体名	事業目的 情報化社会の発展（新規事業）
Code for NAGAREYAMA	流山市が公開をしているオープンデータを利用し、積極的に市民自治に関していく市民が増えることを目的とし、本年、市の課題や魅力を発見・分析し、子ども達へ教える、まとめを発表する機会を設けることにより、知識の定着と伝達手法の習得により、広い層に流山の情報を届けることを目標とする。

1 協働まちづくり提案調整会議委員会評点

評点平均68点（100点満点）

2 協働まちづくり提案調整会議委員会意見

当該事業は、非常に意欲的な取り組みであり、若い感性でしかできない先駆性のある事業として期待したい。

論点と目指す将来像を明示する：

行政と調整されながら、「事業の目指す将来像」を作り上げ、明確に打ち出していきたい。なお、他の自治体でもこのような取り組みをしているが、オープンデータという不明解な言葉の解説も必要と思われる。「なぜオープンデータなのか?」、「何の効用があるか?」等の当然な疑問について、オープンデータの活用を行うことによる効用や効果を市民へ明確に伝えていただくことも期待したい。「ある」データの活用だけでなく、眠っている、あるはずのデータを共有するという事に繋げていきたい。

事業イメージを整理する：

しっかり聴講料を取っているところも評価できる。事業内容については、成果が未知数である。それについては、リーダー養成の為の事業なのか、という事業の目的に関する疑問、収支が不確実ではないだろうか、3回/年開催では吸収するのは充分なのか、という計画の妥当性への疑問、データに関して双方向のやり取りは可能か、という事業への期待等、様々な意見があがった。

平成29年度流山市民活動団体公益事業補助金
公開審査結果

No.	申請事業名
6	終末期に備えて、医療と介護をともに考えましょう
団体名	事業目的 福祉の増進（新規事業）
NPO 法人流山高齢者安心ネット	「終末期に対して、どう備えていいかわからない」高齢者の方々のために、現場の声（医師、ケアマネ、高齢者施設経営者、施設従事者等々）を聞く場、具体的な知識と情報を得る場、自分の希望を認識する場、同じ年代の方々の意見を交換する場（ワークショップ）を提供し、医療と介護の両面から、終末期に備えるための啓発活動を行っていききたい。

1 協働まちづくり提案調整会議委員会評点

評点平均76点（100点満点）

2 協働まちづくり提案調整会議委員会意見

老いは突然やってくる。高齢者を抱える働く世代が、特養、老健、サ高住、ケアハウス等を知っていなければ、適切に地域包括センターへアクセスできない。当該事業は、この認識を高める取組みとして意義が高い。

個人を踏まえて公を考える：

当該事業は「人の死とは何か」について深く掘り下げることで、社会のためになる公の新しい世界を見せてくれるのではないか。エンディングノートは、作成過程で必要事項の一つ一つを自ら確認していくことで自然と出来上がるものが、この動きをリードするこの活動は重要である。あくまで個人自らが実践する「個人の問題」を、公益事業が支援として取組むこととなるため、介入できる範囲を明確にされたい。

「一緒に」という観点で取り組む：

地域の様々な会場で実施され、関心度（ニーズ）は非常に高い事業と思われる。医療・介護の他、終活（エンディングノート・遺言・葬儀・財産分与等）として、具体的なPR活動を取入れるといいのではないか。ニーズが高い事業は集客があらかじめ期待できる。事業内容については、終末期の備えとともに楽しみの創出の両方を分けない取組み、「一緒に」を地域に作る取組みを工夫いただきたい。自治会に深くかかわっているが、自治会から少し負担し

てもらってもよいのではないだろうか。参加者層については、高齢者だけではない拡大を是非目指してほしい。集まっている方が終末期を迎えた方だけであると、本人のため、家族のためというところで閉じてしまう。小学生にとっては、地域の方や人生を見る機会になるのではないか。子ども会の指導者や自治会などに広く呼び掛けてはどうだろうか。この取り組みをどう認知させるか、この工夫については行政の関係部署と協働し、行政と役割分担を。行っていることや参加者層の周知を頑張してほしい。

平成29年度流山市民活動団体公益事業補助金
公開審査結果

No.	申請事業名	
7	プラチナライフを応援する！高齢者向けフリーペーパー「BUCK UP」 発行事業	
	団体名	事業目的 福祉の増進（新規事業）
	特定非営利活動法人ライズアップ女性サポート実行委員会	高齢者の心と体の健康に役立つ情報を発信し、さびない心と体のためのプラチナライフの実践をPRし、介護予防の一助とする。また高齢化を「いつかは誰でも通る道」ととらえ、出来ることで貢献していくボランティアの重要性とノウハウを広くわかりやすく伝える。

1 協働まちづくり提案調整会議委員会評点

評点平均72点（100点満点）

2 協働まちづくり提案調整会議委員会意見

高齢者が交流する契機を工夫する：

この活動が、高齢者と他の世代との交流が拓かれる契機になればいい。子育て世代向け雑誌の発行団体が高齢者向け事業を行われるので、コラボレーションを期待している。高齢者と他世代との交流が増えていくきっかけとなるように工夫いただきたい。フリーペーパーを読むことさえしない高齢者にはどう周知するか。既に発行されているフリーペーパーは多い中、独自性を出していくことが必要である。

企画段階から行政と協働する：

高齢者を「閉じこもり」から引き出す事業「ふれあいの家」が、市内に20か所ある。まずは、この活動を活性化し、近隣、周辺の高齢者の参加をいかに実践するかを市の基本方針施策すべき、という意見があった。基本に据えるべき施策を確認されながら、どう展開していくかについて「事業の目指す将来像」を行政と作り上げ、明確に打ち出していきたい。他のフリーペーパーが広告集めや寄付で自主発行している中、当該事業が確保すべき公益性については常に念頭に入れていただきたい。

審査会で指摘もあったことであるが、adobeのライセンス譲渡については、

規約をよく確認され気を付けていただきたい。

平成29年度流山市民活動団体公益事業補助金
公開審査結果

No.	申請事業名
8	小学4年生以上の夏の居場所に関する啓発・研修事業
団体名	事業目的 子どもの健全育成（新規事業）
ナツイエ	「小学4年生以上の夏の居場所づくり」に関する理解者・協力者・担い手を増やすことを目的とした事業である。子ども達は、さまざまな体験や、人間関係構築をすることにより、チャレンジする心が養われる『豊かな経験』ができる場所が必要である。去年夏に行った「小学4年生以上の夏の居場所づくり」の実証実験での成果をもとに、①講演および、様々な場所で同様の事業が開催できるような講座の開講、②実施体験、③成果発表を行うことを目標とする。

1 協働まちづくり提案調整会議委員会評点

評点平均70点（100点満点）

2 協働まちづくり提案調整会議委員会意見

事業の目的は素晴らしく、ぜひ現実的なものにしていただきたい。地域全域に広がって活動してほしいなどの期待はあるが、地道にひとつひとつやっていたきたい。

計画展開を整理する：

当該事業がテーマとする「夏の居場所づくり」については、子育て世代が増加している流山市では大きなテーマである。そのため、将来の発展性やどこまで人を巻き込めるかに期待する意見や、広がっていく活動の道筋をより具体的にしてほしいという意見、計画がよく見えない、小学区の実践にしたいとのことだが何年かかるかわからない、フォローの仕方が見えない、と様々な意見があった。

行政との協働イメージを整える：

また、現に共働きの親と長期休暇を過ごす児童がいる中で、早急に取り組まなければならない事業ではないかと思われるため、これらの児童を受け入れる体制づくりを優先するとなると、講演や勉強会でなく具体的な事業が必

要ではないか。市の支援を引き出す運動を含め、市民活動団体として取り組むべきではなく具体的な事業を優先すべき、という意見もあった。今テーマに関連して、行政側から学童クラブから放課後クラブへ将来移行してもらいたいところであるが、その第1歩として違う面（民間）からのアプローチも第1歩である。事業の実施にあたり、教育担当課との連携を深めていただきたい。今後の進め方について行政とよく調整されたい。子供の居場所を社会で向き合って作っていくことは大きな公益の話である。その人の人生を作るのは子供時代であるので応援している。